

報 告 書

開 催 日 時	令和 7 年 7 月 2 9 日 19 時 30 分 ～ 21 時 00 分		
自治協議会名	上津地区住民自治協議会	開 催 場 所	上津地区市民センター
出席議員	福村 教親、市川 岳人、大石 亮子、桃井 弘子		
	班 長	福村 教親	記録・報告者 大石 亮子
参加人数	1 7 名		

<地域防災について>

参加者からの課題・意見

- 青山上津体育館（神村学園）が避難所だが、雨漏りがあり使用に不安。バケツで水を受けたり屋根にブルーシートをかけている。トイレも使用できない。
- 教育委員会へ要望書提出済み。契約上、貸付期間中は神村学園が維持補修を行うはずだが、対応が進まず2年経過。
- トランスが老朽化して電源ストップ。中古トランスで対応。
- 上津地区・坂下地区の避難所であり、連名で要望を出しているが進展が見えない。
- 消防団：6地区あるが団員を出せない区があり、市外在住の若者に依存。

議会からの意見

- 支援団員（OB・事業者）の活用や、学生消防団（神村学園など）の可能性を模索しても良いのでは。
- 若い世代が少なく、参加を敬遠する傾向（飲み会に行きたくない等）がある。
- 初期消火を地域でできるようにする工夫が必要。

<少子高齢化について>

参加者からの課題・意見

- かつて1,500人→現在700～800人に減少。高齢化率が高い。
- 空き家を外国人が寮のように利用し、事件につながった例もある。
- 人口減少で従来の活動が維持困難。
- 親ごと他地域に転居する例も増加し、残る若者の負担が大きい。

議会からの意見

- 音羽地区では外国人も区に加入している。
- 「依那古体験隊」などで郷土愛が育まれ、子育て時に帰郷するケースあり。卒業生がスタッフになるという例もある。
- 他地域の事例：子育て世代が自治会活動参加でポイント付与、登録人材制度などの工夫をしているところもある。
- 子どもは多いが自治会や福祉会に入らない地域もある（例：車坂のこども神輿）
- 「付き合いをしたくない」若年層の意識変化も背景にあるのでは。

- こどもが少なくなっているが故に子ども同士で遊ぶ機会が減っているので、少なくなっているから活動を辞めてしまうのではなく、子どもたちのために継続していただきたい。

<空き家対策について>

参加者から課題と意見

- どの地区も移住者はいるが「老後をのんびり」というケースが多い。
- 特定空き家については解体補助金があるが、持ち主不明の場合の対応が課題。
- 隣家から解体を求める声あり、見積もりしたが解体には至らず。
- 所有者が不明確な場合、市が勧告等してもらえるのか。

議会からの意見

- 地元住民が空き家に入居できる補助金など、色々な分野に参画してもらう必要がある。
- ふるさと住民票登録制度の活用や、金融機関と連携したリフォーム融資支援。
- 代執行の優先順位は危険性による。

<その他・生活環境・インフラ要望>

参加者からの課題と意見

- コリドールロード道路整備要望。信号機設置を求めるも、黄色線やパテライト回転灯対応にとどまる。
- カーブミラーの視認性が悪い。
- 倒木による電線断線で停電発生。水源地に影響し、2日間停電は深刻。電柱移設を3年前から要望。
- 今年から伐採事業が始まるため活用予定。
- 川の浚渫撤去を毎年要望。
- お産をする施設の問題について

議会からの意見

- 医療のあり方、特別委員会で提言書をまとめて、市長へ提出した。建て替えの計画をしていかななくてはならない、広域的に民間との連携なども視野に診療科目、分娩産科医療、小児科、民間だけにまかせておくのではなく、救急の問題、対応できる、医療体制、人材確保など進捗管理もしっかりしていく必要がある。

伊賀市議会議長 様

令和7年 9月 3日

上記のとおり、地域意見交換会の概要について報告いたします。

令和7年度 地域意見交換会 7 班

班長 福村 教親